

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	塩尻 英明
視察地	加古川市		
調査事項	部活動地域展開に向けた取組について		
視察年月日	2025年11月12日		
視察内容	<p>加古川市の取組みの最大の特徴は、既存の部活動を段階的に地域へ「移行」させるのではなく、令和9年度（2027年度）をもって中学校の部活動を（平日・休日ともに）完全に終了させ、全く新しい社会教育活動としての地域クラブ「かこ☆くら」を創設した点にある。</p> <p>多くの自治体と異なり、スポーツ・文化行政が市長部局に移管されている。これにより、教育委員会が単独で本事業を担うのではなく、「学校との調整」と「受け皿づくり」という明確な役割分担のもと、縦割りなく事業を推進している。</p> <p>「かこ☆くら」は学校教育から完全に切り離された社会教育活動と定義されているとのこと。生徒は学習塾や習い事と同列の放課後の選択肢の一つとして「かこ☆くら」を選ぶ体制となっていて、勝利至上主義や営利目的ではなく、趣味や交流から競技力向上まで、生徒の多様なニーズに応えることができていると、学校区や市域を超えた活動も可能となっているようだ。</p> <p>担い手の確保をするために学校施設の無償開放や公共施設使用料の全額免除を行っており、参入障壁を下げつつも、研修の受講や保険加入により安全性や質を担保し、さらには第三者による相談窓口を設けることにより問題が生じた際の対応が可能となっている。</p> <p>主な課題としては担い手の偏在、保護者の会費負担、施設管理などがあり、これまで参加すること自体は無料だった部活動が、費用負担の発生による「なぜ無料じゃないのか」という意識の転換を市民に受け入れてもらわなければならない。</p> <p>説明によれば、部活動が完全に廃止されると、大会を主催・運営する側の担い手である教員がいなくなるという根本的な問題が生じる。中学校体育連盟は市の組織ではなく、あくまで教員の組織であり、加古川市のように部活動をゼロにするという急進的な改革に対し、地域クラブが参加できるような全国的な制度設計がまだ追いついていないのが実情であるとのことだった。また、学校施設を利用している既存の団体に利用を辞めてもらう必要があり、この点についても旭川市においても大きな課題となることが予想される。</p> <p>加古川市は思い切った判断をしたわけだが、旭川市において部活動の地域移行（地域展開）を実行する場合に上記と同様の課題が存在することは明白であり、誰もが参加できる活動とするためには費用面の課題もクリアしなければならない。また、感じた点としては中学校の部活だけの問題ではなく、習い事として活動している小学生との整合性も含めた議論をしなければ根本的な解決には至らないだろう。ただ、本市としても喫緊の課題でもあり一刻も早く取組む必要があると考える。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	塩尻 英明
視察地	武蔵野市		
調査事項	武蔵野市立ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイスについて		
視察年月日	2025年11月13日		
視察内容	<p>武蔵野プレイスは、従来の「本を借りる場所」としての図書館を超え、「アクションの連鎖」を生み出す場として設計されている。そこには4つの機能があり、「図書館」「生涯学習支援」「市民活動支援」「青少年活動支援」となっている。各フロアで違う空間が創設されており、実際に施設を見学すると従来の公的施設とはかけ離れた作りとなっていて驚きの連続だった。</p> <p>施設は地下3階、地上4階で構成されており、施設内は曲線を用いた開放的なデザインが特徴となっているが、地下に伸ばした理由としては外の景観を圧迫せずに自然と融合するためだったとのことで、設置者の徹底さが感じられた。</p> <p>図書館については、武蔵野市の人口数自体は旭川市よりも少ないが、武蔵野プレイスの年間貸出し件数は旭川中央図書館よりも多く、充実した図書館となっていることがうかがえる。ただ、利用者アンケートでは半数近くが市外の住民であり、税金の使われ方として疑問は残るが、それだけ多くの人が集まる施設であるということも言える。</p> <p>地下2階の「スタジオラウンジ」では、中高生を中心とした若者の「たまり場」として機能している。飲食や会話が可能で、ダンススタジオやバンド練習室も完備されており、若者が学校や家庭以外で安心して過ごせる第三の居場所となっていた。また、地域の大学や専門家と連携した「土曜学校」など、独自のプログラムが充実している。単なる講座の提供にとどまらず、市民が学びを通じて地域活動へ参加する循環を生み出している点が特徴的だった。</p> <p>入館したすぐの1階中央にはカフェがあり、くつろぎながら食事をとることができるため長時間の滞在に繋がっている。視察時にも多くの方々が食事やコーヒーを飲みながら時間を過ごしており、多世代に渡って利用されている施設なのだと感じた。</p> <p>特に印象だったのは前述したフロアによる違う空間であり、従来の図書館のように静かな空間もあればカフェや第三の居場所のように賑わいを感じる空間もあり、従来では見られない一つの施設に様々な要素が融合されながら、それらがフロアごとに遮断されているのではなく、繋がっていながら上手に融合されていることに感銘を受けた。</p> <p>運営コストと財源については、年間運営費は約5.8億円前後で推移しており、その9割以上が市の一般財源（税金）で賄われている。施設使用料等の収入は限定的であり、高い公益性を維持するために市として積極的に財政支出を行っているのが実態である。</p> <p>旭川市と比較した場合、財政規模や都市構造の違いから、同規模の新規複合施設を建設することは現実的には困難であると言わざるを得ず、また、既存の建物の耐用年数を考えると真似をするのは得策とは言えない。しかし、既存の建物を活用し、機能を複合化させることで「人が集まる施設」へと転換していくという視点は重要であり、旭川市の市民サービス向上に向けて大変参考になる視察だった。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	塩尻 英明
視察地	大和市		
調査事項	大和市文化創造拠点シリウスについて		
視察年月日	2025年11月14日		
視察内容	<p>神奈川県大和市が設置した文化創造拠点シリウスは、図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場という4つの主要機能を集約した複合施設となっている。この施設の特徴としては単なる機能の集合体ではなく、「市民の居場所」「街のリビングルーム」として設計・運営されていることにある。</p> <p>特に施設の中核をなす図書館は、従来の静肅性を求める空間とは一線を画し、館内BGMやフタ付き飲料の持ち込み、会話を許容する「滞在型図書館」のコンセプトを徹底している。これにより、乳幼児連れの親子から、学習する学生、交流を楽しむ高齢者まで、多世代の市民が気兼ねなく時間を過ごせる動的な空間が創出されていた。</p> <p>この「居場所づくり」というソフト面の運営こそが、開館から高い人気を維持し、年間260万人から300万人という市の人口（約24万人）を遥かに超える来館者数を集める原動力となっている。また、運営を指定管理者である共同企業体「やまとみらい」に委ね、図書館流通センター、サントリーパブリシティサービス、ボーネルンドなど各分野の専門企業がノウハウを持ち寄ることで、施設全体の一体運営と高いサービス水準を実現している点も、高く評価されているようだ。視察中に説明されていた「頻繁に関わっている企業や市の担当者が集まって会議を行っている」ということがこの高い評価の原点になっているのではないだろうか。</p> <p>一方で、この成功モデルには明確な課題も存在しており、最大の課題は、年間約10億円に上る巨額の維持管理コストであり、市の財政規模に対する負担の大きさや、その持続可能性については市議会でも継続的な論点となっている。また、評価されている反面、開館以来同一の指定管理者が運営を担い続けていることに対し、指定管理者制度の趣旨である競争原理が働いていないのではないかという指摘もなされている。</p> <p>また、図書館機能としての成功に対し、芸術文化ホールの稼働率については目標を87%と設定しているところ、95%という高い稼働率を達成しているが、来場者数では目標25万人を設定しているものの209,782人と目標値よりも大幅に少ない状況となっている。</p> <p>昨日視察へ行った武蔵野プレイスとは違いフロアごとで分かれている感じはあったが、貸室等においてはガラス壁となっており「見える化」されることで繋がりやすさを創出していたような気がする。</p> <p>今回の視察を通じて、これからの公共施設に求められるのは「何を建てるか」ではなく「どのように使ってもらうか」というソフト面の設計思想であることを強く認識した。旭川市において、シリウスと同規模の施設を新規に建設することは財政的にも困難であるが、既存の公共施設を「静的な管理」から「動的な交流」の場へと転換させていく手法や、民間活力の導入によって「人が集まる施設」へと転換を図るといった視点において大変参考になった。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。